

令和5年度 ICT を活用した授業改善研究校報告書

井口中学校

1 学校の課題

- 全国学力・学習状況調査の結果から、本校の生徒は、知識・技能が比較的定着しており、思考力・判断力・表現力が高いグループがある一方、小学校の知識を含め基礎的な知識・技能が定着していないグループがあり、二極化している。それぞれの生徒に力をつけていく必要がある。
 - 課題①：学力の二極化
- 学力が高い生徒であっても、根拠を明確にして説明したりすることや議論すること、自分の考えを表現することを苦手と感じている生徒が多く、対話や議論を通して考えを深める事ができない。学校生活全般においても、配慮のない声かけや立ち振る舞いで仲間を傷つけてしまうなど、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた素地となる人間関係づくりに課題がある。
 - 課題②：個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた素地となる人間関係
- 教員によって ICT 活用にはばらつきがある。ICT の利用場面を計画したり、意見交換のために ICT を活用させたりすることが苦手な教員が多い。
 - 課題③：教員の ICT 活用指導力

2 研究主題

主体的に課題に向かい、対話によって学びを深める生徒の育成
～ICT 機器の利点を活かした協働的な学びをめざした授業づくりを通して～

3 取組内容

- (1) 学習課題の工夫
 - ソーシャルスキルトレーニングの実施 → 【課題②】
学習する上で必要となる、人間関係やコミュニケーションに関わる技能を高めるために、全学年においてソーシャルスキルトレーニングを実施した。
 - 校内ミニ研修会の実施 → 【課題①】
生徒間の人間関係について共通認識を図り現状を把握するとともに、生徒の意欲を掻き立て単元全体の原動力となるような課題設定の仕方を検討する目的でミニ研修会を行った。「生徒たち一人ひとりが積極的に取り組んでいた課題とは？」というテーマから話し合いをはじめ、単元や題材全体を見通した適切な課題設定について議論し、取組を検討した。
- (2) 学習支援システム等を活用した授業研究の推進（授業観察・実践事例の蓄積）
 - 学習過程も含む「ICT 活用事例集」の作成 → 【課題①】【課題③】
昨年度に引き続き、教育活動における ICT 活用の実践事例を、7月、11月、2月の年3度、レポートの形でまとめる取組を行った。今年度は、新たに「学習過程のどこで、どういうねらいを持って活用したか」も明示して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のために自らの授業にどう取り入れられるかをイメージできるような形を意識して作成した。また、公開研究会に参加してくださった先生方へ、参考資料として、実践事例集を配付した。来年度、本校に異動されてこられる先生方も参照できるようにデータとして保存している。

- 相互授業観察の取り組み →【課題①】【課題③】

他の先生の実践を知り、自分の授業に活かすヒントを見つけるために、お互いの授業を見に行き、気づきを共有するという取組を行った。メモしたものは後日、教職員の Classroom にアップロードした。講師の先生も含め、授業を見たり見られたりという取組を行った。

- (3) 教員の ICT 活用能力の向上を図る取組

- 校内研修会、授業研究会でミライシード等の使用 →【課題③】

模擬授業で教員が生徒役となり、実際にオクリンクやムーブノートを使って意見を交流することで、子供たちが必要に応じて協働的学習の具体的なイメージを持つことができた。

4 検証結果

- (1) 学校評価アンケート（生徒）の調査結果の比較

項目	7月	12月
私は授業中、仲間の考えを参考にして課題の解決に取り組んだ。	84.9%	89.4%

- (2) 情報活用能力チェックシート（生徒）の調査結果の比較

情報活用能力（生徒）【「できる」と「ややできる」と答えた割合】

情報活用能力チェックの項目	6月	2月
知りたいことを、本やインターネットなど複数の方法で調べ、比べて、必要な情報を判断することができる。	85.7%	90.7%
必要に応じて自分からタブレットを適切に活用し、学習することができる。	93.2%	97.0%
資料や ICT 機器を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。	85.8%	87.4%
スライドやオクリンク等で考えをまとめることができる。	92.3%	95.0%

- (3) 情報活用能力チェックシート（教員）の調査結果の比較

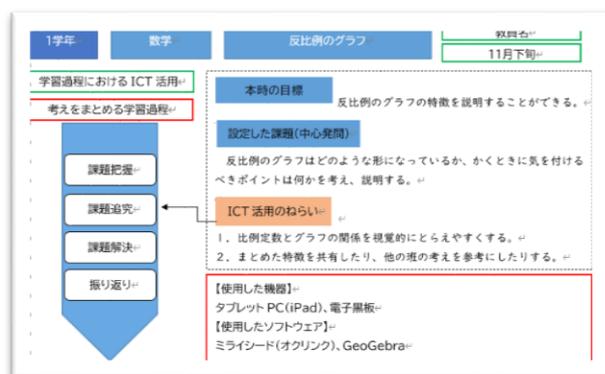
情報活用能力（教員）【「できる」と答えた割合※（ ）内は「ややできる」と答えた割合も含む】

情報活用能力チェックの項目	6月	2月
教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場면을計画して活用する。	47.8% (100.0)	70.0% (90.0)
生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	47.8% (100.0)	70.0% (100.0)
生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	39.1% (91.3)	80.0% (90.0)
生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信できるように指導する。	43.5% (100.0)	80.0% (90.0)

5 研究成果

成果

- 4(1)より、仲間の考えを参考にする生徒が増加した。これは、校内ミニ研修会で生徒の実態を踏まえた課題設定について共通理解を図ったため、教員が組織だって指導を行うことができ、協働的な学びの素地となる人間関係が構築されつつあることが要因と思われる。【課題②】
- 4(3)より、端末を活用した校内授業研究会の協議会や模擬授業を行ったことで、教員の ICT 活用指導力が向上した。これに伴い、4(2)のように、生徒も自分の学びに必要なもの（他者の考えや情報）を選択したり表現したりする力を向上させることができた。本校の二極化している実態を踏まえると、この力は学力向上のために重要な能力である。ICT を文房具の 1 つとして使用できるようになってきている。【課題①】【課題③】
- 「ICT 活用実践事例集」により活用事例を共有できた。これをきっかけに挑戦する教員が増加し、研修や日々の取り組みで試行錯誤し続けている結果、多くの教員が ICT の効果的な活用に自信を持つことができてきている。【課題③】



ICT 活用実践事例集

- ・ 曲線が2こできる
- ・ その2本が0を中心に点対称になっている。
- ・ 無限に続いている
- ・ $x > 0$, $0 < x$ のそれぞれの変域で、 x の値が増加すると、 y の値は減少する
- ・ $x < 0$, $0 > x$ のそれぞれの変域で、 x の値が増加すると、 y の値は増加する
- ・ 曲線が反ってはいけぬ。(巻き戻ってはいけぬ)
- ・ 原点は絶対に通らない
- ・ 0を中心に直角に交わる2本の線に双曲線は当たらない
- ・ 直線になってはいけぬ
- ・ x の値が0に近づくと限りなく y の値が0に近くなる
- ・ x の値が0から遠ざかると限りなく y の値が0から遠くなる
- ・ 比例定数の絶対値が大きくなると曲線の丸みが緩くなる
- ・ 比例定数の絶対値が小さくなると曲線の丸みが急になる
- ・ 点0に曲線が当たらない

生徒がオクリンク上でまとめたもの

課題

- 生徒たちに、情報の信頼性を確認する力や目的に応じて情報を取捨選択する力は高まりつつあるが、学力向上のために一層その力をつけていくこと。
- ICT 機器の活用が苦手な教員が、授業においても無理なく使えるようになるには、まずは校務でどんどん使ってもらい便利さを実感してもらうことが重要になってくる。そして、他の先生方が授業でどのように使われているかを校内研修や活用事例集で紹介し、知ってもらい、スモールステップで「自分も挑戦してみようかな」と思ってもらえる仕組みが必要である。また、多忙な中でも日々の実践を共有し、個々の先生方の授業デザインをアップデートしていくためにも、時間や場所に制限されずに共有するしくみをつくること
- アンケートに回答しているのは本務者のみなので、結果の数値も本務者のみのものとなっている。講師の先生方が ICT を活用できる環境を整えることや講師の先生方と密に連携すること。
- 小中連携した計画的な取り組みを継続して行っていくこと。